

式 辞

暖かな日差しの中、鳥が鳴き、梅が香り、春の訪れを感じる頃となりました。この佳き日に、令和六年の卒業式を挙行するにあたり、瀬戸内市市長 武久顕也様を始め、ご来賓の皆様、このように盛大に執り行えますことに、心から感謝申し上げます。

また、卒業生のみなさんを始め保護者の皆様と地域の方々と共に、この日を迎えられたことに喜び申し上げます。

一六四年の卒業生、御卒業おめでとうございませう。皆さんは今日、卒業式という大きな節目を迎え、九年度の義務教育を終えて、それぞれの進路に向かって巣立っていきます。三年生が中心となりカラフルな旗を使った全体演技でのマスゲームは、一振り一振りの音が、かけ声となり、全校生徒の心を一つにして青春を開華させてくれました。さらに、選手だけでなく、クラス全員が応援したり、万歳をして、選手の頑張りをたたえ合う姿が見られ、どこからともなく勝者におめでとうという声がかけていっている姿は、感動でした。

邑輝祭では、思いを込めた三年生の歌声が体育館いっぱい響き渡り、二年生の時とは比べものにならない素晴らしい歌声を全校に披露し、これが邑久中学校の「邑輝祭だ」といえば、かき鳴らす盛り上げを見せました。また、閉会式で全校生徒に呼びかけ、校歌の響く学校を実践してくれました。

今年の三年生が邑久中学校に残してくれたのは「笑顔の華」だったように思います。みんなで一生涯の懸念を取り組んで生まれ、その結果をお互いにたたえ合う姿は、みなさんのこれから的人生の中でできると信じています。

今日は、みなさんにオリンピックやり投げで、日本初の金メダルを取った北口はるか選手の話をします。東京オリンピックでは、日本勢五七年ぶりの決勝進出をしたものの十二人中十二位に終わり悔しい思いをします。しかしパリオリンピックでは、シーズンベストとなる六五メートル八十センチを投げ金メダルをとります。

北口選手は、三歳の時から水泳を始め、小学校六年の時にはバドミントンの全国大会で優勝、オリンピック選手、山口茜（あかね）選手とも対戦したことがあるそうです。さらに、中学校では、水泳で全国大会出場、バスケットや体操、英会話やピアノといった稽古事まで、様々なことに挑戦したそうです。小学校三年生の時、水泳の練習で、いつも、二周遅れとか三周遅れになるような選手だったそうです。でも、北口選手は、一度も練習を休むことなく、どんなに人におくられても涙を流しながらでも最後まで泳ぎきっていたそうです。

北口選手の今の記録の原点は、どんなに記録が悪くても、どんなに人におくられても、自分のできることを最後までやり抜く、あきらめない姿勢だと思います。

また、「今まで全部一気にできるようにと思っていただけだけれど、できるようになればいいと考えることで気持ちが楽になった。」とも言っています。努力を重ねていけば、ゆっくりだけれど着実に前に進んでいける。その積み重ねが、北口選手を成長させたのだと思います。

北口選手のお母さんは、「つらいことをつらい顔でやっている」と本当につらいから、常に笑顔でいれば幸せなこともきくと一緒にやってくる。」と言っています。北口選手はいつもえがおを絶やさず、困難を乗り越えてきています。

北口選手は、大学三年の時、やり投げの国際会議で出会ったチェコの監督に、自分を教えてほしいとお願いをします。チェコは、やり投げの世界の強豪国で、世界記録保持者もチェコ人です。その声かけがきっかけとなりメールのやりとりを通してその四か月後、チェコに渡り、トレーニングを開始することになります。言葉も分からない異国の地で、知らないコーチに自らアタックするそのチャレンジ精神があったからこそ、この金メダルはあったと思われます。

さて、これから中学校を巣立つみなさん。

北口選手のように、「努力を続けていける人」、「笑顔を大切にできる人」、「挑戦し続ける人」を目指して、これからの人生を一步一步前進してほしいと思います。

「努力」は、自分の活力となり、「笑顔」は、人を呼びます。そして、「挑戦」は、未来を開いていく力となるはずです。

みなさんにはこれから、素晴らしい人生を切り開いてほしいと思います。

最後になりましたが、御列席頂きました保護者の皆様方、三年間にわたり皆様にとってかけがえのない大切なお子様をお預かりし、生徒一人ひとりに全教職員で一丸となって指導に取り組んでまいりました。この三年間、本校の教育活動に格別の御理解と御協力をいただきましたことを、教職員共々、心よりお礼申し上げます。

御来賓の皆様、地域の皆様も含めまして、改めて本校にお寄せ頂きました数々の御支援と御協力に感謝するとともに、卒業生の限らない前途を祝福して、式辞といたします。

令和七年三月十四日

瀬戸内市立邑久中学校長 松田典久